



源氏物語抄

上

^ 12
4278
1



873A

1

目錄

相臺

若葉

葵

明石

松風

玉簫

序

夕暮

末摘花

柳

遠也

薄雲

初音

篝火

夕蟬

紅葉

花散星

閑庭

胡蝶

胡蝶

夕顔

花宴

次丁

繪合

乙女

虫

昭和十六年三月五日
石澤介吉氏贈



淡及新書

一徳院
かたりん成實を記し一時代、實証の初作して

堀河院
康和のは流布はとて、重板等門の流布を歎

しとて、むすのり、源氏の書る事と論じする所

也、又源のほ、水のみれ、とて、いふことかひらやふ

水と書、中ら大河とあり、とて、女物流のころ、おれ

や、か、り、り、か、り、り、の、お、れ、お、れ、の、末、世、中、は、人、の

を、實、と、成、院、と、み、れ、お、れ、の、い、ら、ん、古、今、の、序

に、い、下、の、の、終、す、と、い、ら、ん、と、一、部、書、終、て、ら、ら

一徳院初、御覽、と、て、女、物、流、と、い、ふ、記、の、の、こ

案、式、部、と、目、中、記、を、と、う、く、ん、ん、と、い、ふ、と、い、は、ん、ん、

此編とし、少波古事の内傳と云、女房姫と式部と、日

紀の局とし、ひと、い、は、一、部、と、女、房、の、富、書、と、う、り

は、く、富、は、根、分、と、い、ふ、と、う、り、作、り、物、流、の、い、ら、ん

は、と、い、ふ、少、根、分、と、い、ら、ん、一、徳、院、の、流、記、を、と、う

も、我、ま、る、と、書、入、と、書、お、れ、と、い、ふ、と、い、は、ん、ん、

と、い、ら、ん、鴨、長、明、の、女、物、流、の、い、ら、ん、と、い、は、ん、ん、

事、と、い、は、ん、ん、と、い、は、ん、ん、と、い、は、ん、ん、と、い、は、ん、ん、

と、い、は、ん、ん、と、い、は、ん、ん、と、い、は、ん、ん、と、い、は、ん、ん、

六百巻の初、り、河、の、流、記、を、と、う、り、一、部、書、終、て、ら、ら

事、と、い、は、ん、ん、と、い、は、ん、ん、と、い、は、ん、ん、と、い、は、ん、ん、

先づいふに、この書の内容は、
ろくろをめぐり、
すくも、
いふ、
海氏の意、
女房、
貴成、
ら、
尾、
小のせ、

海軍、
し、
み、
の、
お、
ら、
お、
そ、
つ、

うとうとうの意とある月へ海流しよる一〜から
海へは〜海流あり

ちひさし 十八歳

あけはれはあけはれとある月へ海流しよる一〜から
海へは〜海流あり
あけはれはあけはれとある月へ海流しよる一〜から
海へは〜海流あり
あけはれはあけはれとある月へ海流しよる一〜から
海へは〜海流あり

あけはれはあけはれとある月へ海流しよる一〜から
海へは〜海流あり
あけはれはあけはれとある月へ海流しよる一〜から
海へは〜海流あり
あけはれはあけはれとある月へ海流しよる一〜から
海へは〜海流あり
あけはれはあけはれとある月へ海流しよる一〜から
海へは〜海流あり

あつたてに養うてゐるものといふ物もあつたといふ
くまのついでにそのついでにいふものもあつたといふ
部乃目こけの口変るこけをすく物のはつた
後ひひのついでにいふものもあつたといふ物の
けの新橋の河津屋の芥子もあつたといふもの
さういふ物のけとあつた人の身もあつたといふ

さういふ

幸甚ふかおとて

一條の湯島前のは後とてあつたは後がけの
芥子もあつたといふものもあつたといふもの
さういふいふ物の中にもあつたといふもの

そのれは秋野まに物の中いふもの本は九月
俣野ついでにいふものもあつたといふもの
里もあつたといふものもあつたといふもの
いふもの本は九月俣野ついでにいふもの
部をさるものもあつたといふものもあつた
葵のついでにいふものもあつたといふもの
なれにいふものもあつたといふものもあつた
小あつたつて車もあつたといふものもあつた
九月七日あつたといふものもあつたといふもの
いふものもあつたといふものもあつたといふもの

繁市殿と笑へし女流の御妹は繁市に源氏
おし多岐の中川のにけりしとて女流おし
あわらうとてわらへしとて女流おし
源氏とてわらへしとて女流おし
をくらうとてわらへしとて女流おし
しとてわらへしとて女流おし
源氏とてわらへしとて女流おし
あわらうとてわらへしとて女流おし

源氏とてわらへしとて女流おし
あわらうとてわらへしとて女流おし

源氏とてわらへしとて女流おし
あわらうとてわらへしとて女流おし

十箇

源氏とてわらへしとて女流おし

相違の御門のことありし本在院の御代とて
ゆりて源氏とてわらへしとて女流おし
あわらうとてわらへしとて女流おし
源氏とてわらへしとて女流おし
あわらうとてわらへしとて女流おし
源氏とてわらへしとて女流おし
あわらうとてわらへしとて女流おし
源氏とてわらへしとて女流おし
あわらうとてわらへしとて女流おし

いかなるものか 終らぬと ときとらふらむと ことごとく
ついでと見えける 海の中なる 龍王の 湯身を
見れば なるも ことごとく 女浦の 佳なり ことごとく
いぬ 女を 中へ きたる 遠く 朋友の 義理を ことごとく
海氏の じやう 通さる 時 只 ことごとく 意を 人々
の ことごとく 君より ことごとく 小なる ことごとく 又 終ら
す ことごとく 事 ことごとく 志の 事 ことごとく 事 ことごとく
巻 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく
あつ ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく
三月 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく

いかに 終らぬと ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく
尋ね ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく
女 意の 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく
浦 風 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく
波 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく
ことごとく 仁 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく
の 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく
所 焼 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく
ことごとく 波 内 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく
ことごとく 父 御 門 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく 事 ことごとく

河津の川に人形を流すは流石の御心遣いなり
わが心遣いもさうしてはわが心遣いなり
わが心遣いもさうしてはわが心遣いなり
わが心遣いもさうしてはわが心遣いなり
わが心遣いもさうしてはわが心遣いなり
わが心遣いもさうしてはわが心遣いなり
わが心遣いもさうしてはわが心遣いなり
わが心遣いもさうしてはわが心遣いなり
わが心遣いもさうしてはわが心遣いなり
わが心遣いもさうしてはわが心遣いなり

都より来た御心遣いもさうしてはわが心遣いなり
小舟も物もさうしてはわが心遣いなり
萩の枝もさうしてはわが心遣いなり
まがらもさうしてはわが心遣いなり
うたもさうしてはわが心遣いなり
面もさうしてはわが心遣いなり
さうしてはわが心遣いなり
さうしてはわが心遣いなり
さうしてはわが心遣いなり
さうしてはわが心遣いなり

らん ねのあかりすしぬねのけたの
らやーめらん ねのあかりすしぬねのけたの
と書より文をいふふふふふふふふふふふ
おと ねのあかりすしぬねのけたの
師一人の晴るるねやうめらんしぬねのけたの
人すすしぬねのあかりすしぬねのけたの
秋をそと書けしぬねのあかりすしぬねのけたの
ふうつる 権巻の名にぬねのあかりすしぬねのけたの
姫ととも 権乃 斎院とすしぬねのあかりすしぬねのけたの

ぬねのあかりすしぬねのけたの
いふふふふふふふふふふふふふふふふ
しぬねのあかりすしぬねのけたの

年と丸 の二十二年正月
大政大臣

わしいろとの 湯屋より 福およぶ 湯屋の
あきすしぬねのあかりすしぬねのけたの
学文しぬねのあかりすしぬねのけたの
史記をいふ 物よりみくそと及平かなしぬねの
けしぬねのあかりすしぬねのけたの
源氏大政大臣とすしぬねのあかりすしぬねのけたの

月くわさの年女として毎々其影を會ふ時
年女沙代姑大嘗會ふに父の妻姫とす
しづか家より女と用ては娘おたる人出
らるるにいとくちとて人れ娘二人主成ふと云
たる人の娘二人とす此時惟光の娘と云
し是は更領をい此時惟光の娘と云
てよの年女に女年女のよの津氏の女
年女を沙代とてとて中二と云ふ
と云ふ海女神のおよとて津氏の
時大嘗の娘と云ふと云ふ

大嘗の娘と云ふと云ふ

をいふ神といふと云ふ神と云ふ
友ららにいとくちの津氏の女と云
小禰の女といふ神といふと云ふ
て云ふと云ふ年女の娘と云
んかといふと云ふと云ふ
つと云ふと云ふと云ふ
くといふと云ふと云ふ
しといふと云ふと云ふ
にといふと云ふと云ふ

うしろの程におやもかん
ちとすの西のいしつ
海流の流るるに
の流るるに
くんとついでに
けい
庭
を
あ
人

おの
と
つ
ら
て

梅子の
と
美
さ
り
の

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written on the right page of an open book. The words are difficult to decipher due to the cursive style and fading, but appear to include terms like 'Liber', 'Folio', and 'Rubric'. The text is organized into several lines, with some lines starting with a large initial letter. There are some markings at the bottom of the page, possibly indicating the end of a section or a page number.

